

環境問題とリユース・リサイクルの意識と行動（第1報）

日本女大人間生活学 ○鎌田浩子 橋本佐由理

＜目的＞自らの生活様式を環境保全に適合する形に切り替えるとともに、環境維持活動に積極的に参加することが求められている。特に、21世紀を担う世代が、この活動に積極的に取り組むことが望まれる。そのため、環境保全や消費者としての意識を高め、積極的な環境維持活動のできる消費者を育てるためのシステムを構築していくことを目的とする。本研究では、その第一歩として、女子学生のリユース・リサイクルの実態を調査し、リユース・リサイクル活動を推進する上での実態と問題点を明らかにする。

＜方法＞本調査では、本学の学生を対象にして環境問題・リサイクルについての意識・行動の実態に関する質問紙調査を行なった。対照群として卒業生に対して同一調査を行なった。（期間：1994年10月～12月、方法：機縁法及び郵送法）最終的に得られたサンプル数は学生226名（有効回収率75.3%）卒業生99名（有効回収率33.5%）であった。

＜結果＞リユース品の所有率はテレビ、冷蔵庫、洗濯機、パソコン・ワープロにおいて他の生活財と比べ高い傾向が見られたが、その割合としては低く所持者全体の2割にとどまっている。また、リユース・リサイクル行動を積極的にしている者及び時々している者を合わせても全体の半数には満たなかった。環境問題、リユース・リサイクルに関する情報へのアクセスは主に新聞、テレビであるが、リユース・リサイクルへの情報へのアクセスの特徴として家族や友人といった身近な支援ネットワークがあげられており、これらのシステム化が課題である。